# 保健活動の展開と楽しさ
## ～先輩保健師の経験から学ぶ実践力～

朝霞保健所
保健予防推進担当　関口 茉希
令和７年７月２４日

# 自己紹介

〇令和４年　埼玉県入庁

〇現在４年目（看護師として10年程病院勤務）

〇過去の配属先：

・埼玉県感染症対策課（入院調整・クラスター対策担当）

〇現在の配属先：

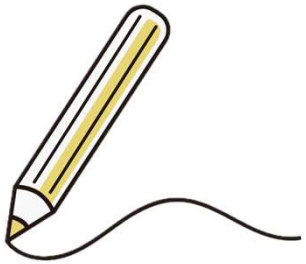
・朝霞保健所　保健予防推進担当(感染症担当)

結核患者のDOTS（直接服薬確認療法）

感染症発生時の積極的疫学調査等

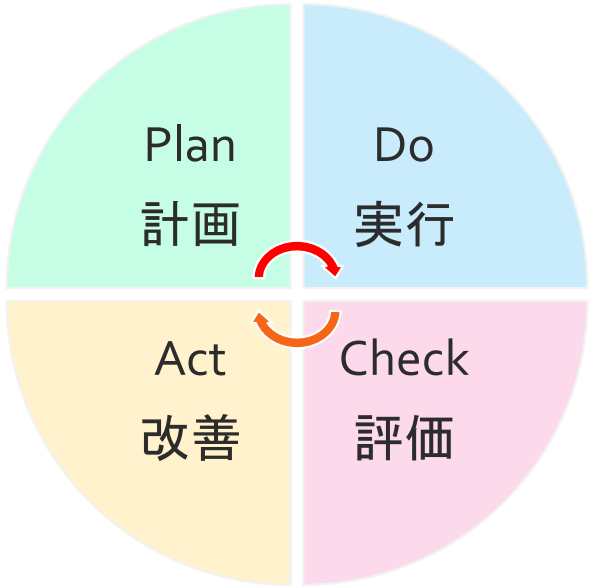
# 本日のお話

１．PDCAとは
２．保健活動にPDCAを実践するメリット
３．PDCAサイクルを使用した事業の振り返り
４．PDCAサイクルを使用したケースワークの振り返り
５．関係機関との協働
６．保健活動の楽しさ



# PDCAとは

| 段階 | | 内容 | 保健師活動の例 |
|---|---|---|---|
| P(Plan) | 計画 | 課題を分析し、目標や活動内容を設定。 | 地域住民の健康課題を把握。<br>実施計画を立案。 |
| D(Do) | 実行 | 計画に基づいた具体的な活動の実施。 | 教室の開催。個別指導。<br>関係機関との連携。 |
| C(Check) | 評価 | 実施内容と成果を振り返り、評価。 | 対象者の満足度等調査。<br>健康指標の変化の確認。 |
| A(Act) | 改善 | 評価をもとに改善策を講じ、次の計画に活かす。 | 対象者の声を反映し、<br>次の活動に活かす。 |




保健活動の中に
【地域診断に基づくPDCAサイクルの実施】
地域における保健師の保健活動に関する指針
（健保0419第1号 平成25年4月19日）
明記あり。

# 保健活動にPDCAを実践するメリット

- 課題に応じた柔軟な対応が可能
- 効果の可視化と説明責任の強化
- 継続的な質の向上
- 円滑な多職種・関係機関との連携

地域の健康課題に対応し効果的で継続的な健康支援を行いたい。
➡科学的根拠と柔軟性の両立、
計画的で評価に基づいた活動が必要。

**PDCAを活用しよう！**

# PDCAサイクルを使用した事業の振り返り
## ～HIV・STD（性感染症）検査～

【概要】

・無料・匿名

・頻度：通常検査　１回/月

・対象者：性感染症の不安がある方

・受検人数：最大１５名

・通常検査項目：
HIV・B型肝炎・C型肝炎・梅毒・クラミジア

○受検の流れ
・事前：電話予約

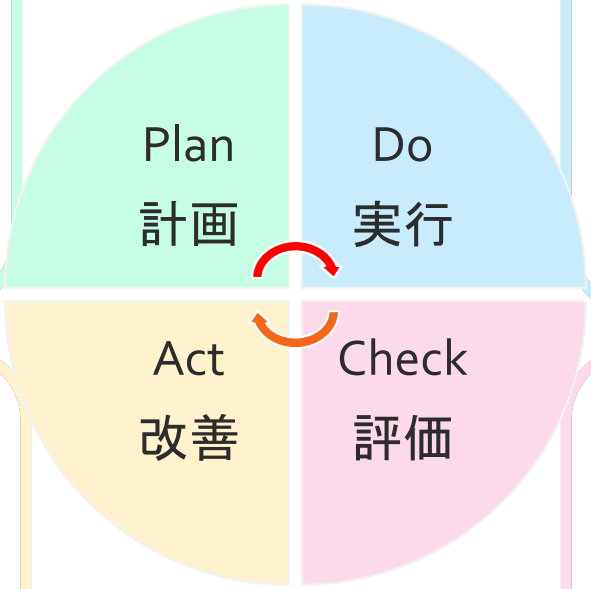
・当日：受付→問診→採血
※問診時、不安や質問に対応

・２週間後：結果返し
※予防方法の指導や受診勧奨

○当日体制
・受付：看護師１名
・問診：保健師２名
・採血：保健師２名

# PDCAサイクルを使用した事業の振り返り

【課題】
・受検時の体調不良事例あり
【要因】
・不安や緊張
・若年層が多い
・朝食を摂らずに受検（採血）
【目標】
・安心・安全な検査の実施




・HP掲示内容変更
・電話予約対応内容変更
・緊張緩和のための声掛け・環境作り
・不安や質問に対応
・各担当で受検者情報共有
・採血時の注意、臥床可について説明
・採血時の注意事項札を作成

・マニュアルに反映
・フロー作成
・パンフレット内容変更

今後、予約が電子申請移行
→検査案内方法について再検討

・体調不良事例の減少
・安心・安全な検査の実施

# PDCAサイクルを使用したケースワークの振り返り

【概要】
（対象者）
・30代男性。

・外国出生。
難民申請中（在留資格3か月毎の更新が必要）。

・結核・他疾患罹患。

・言語はフランス語のみ可。

・経過：
咳あり、NPO法人主催の健康診断で、結核疑い。
結核専門病院紹介受診。肺結核診断。
排菌している状態（喀痰塗抹検査陽性）であり、
入院。

（保健所）
・結核専門病院から発生届の提出・連絡を受け、
状況を探知。

→入院72時間以内に入院勧告を行う必要があり。

→早急な通訳手配が難しく、機械翻訳・フランス語
作成文で勧告実施。

# Plan　計画

※映写時にご説明いたします。

【課題】

【短期目標】

【長期目標】

# Plan　計画

※映写時にご説明いたします。

【支援計画】

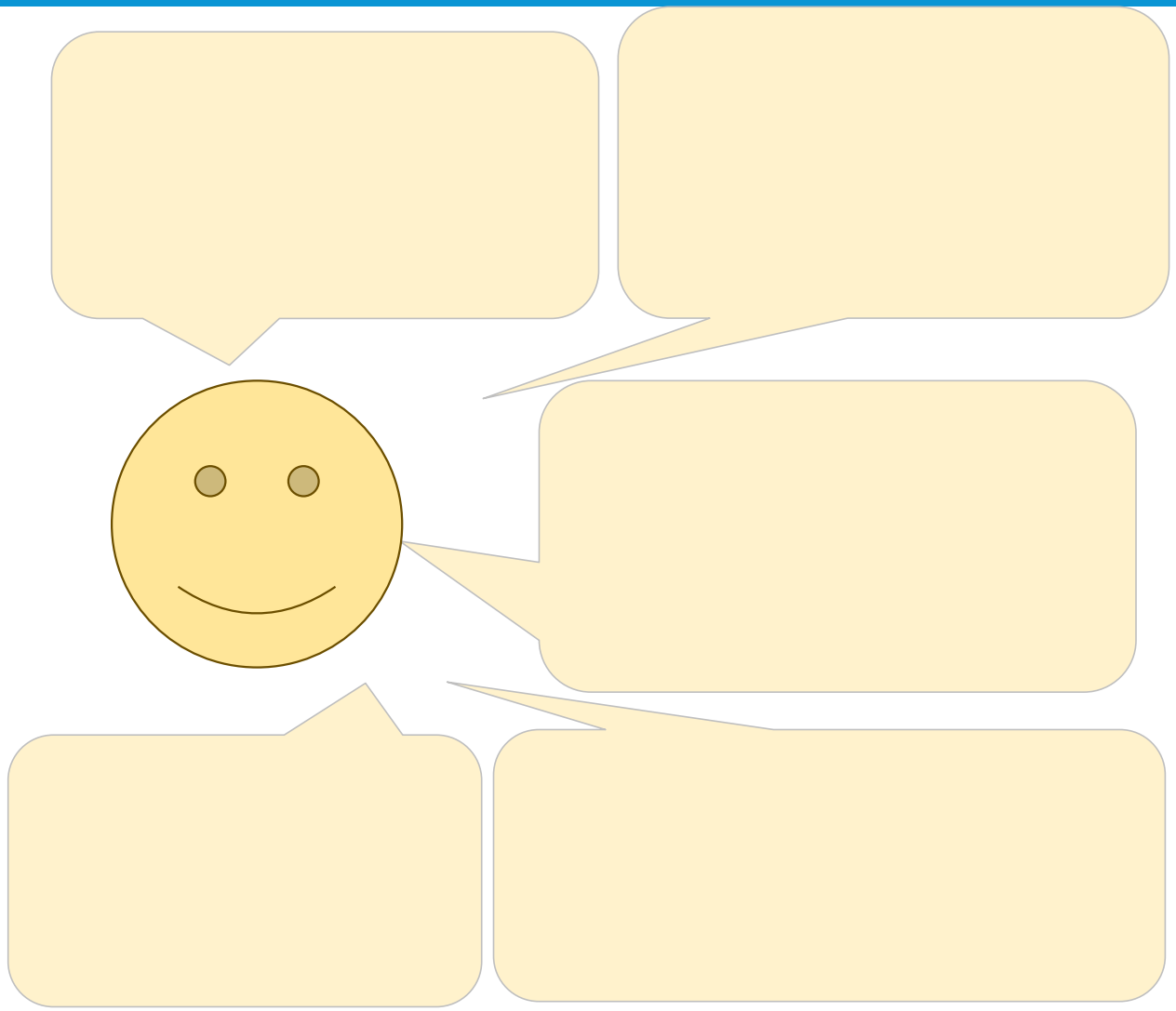
①病院MSW・NSと情報共有

②ビデオ通訳を利用した面接のセッティング（患者の体調を踏まえ2時間）

# Do　実行

※映写時に
ご説明いたします。

【支援内容】



# Check　評価

※映写時にご説明いたします。

【達成状況】

【目標の振り返り】

# Act　改善

【新たな課題】
・入院中の生活（食事、精神面のフォロー）

・生活費（家賃）・医療費支給の把握

→課題の再把握・目標の再設定

**PDCAを回し続ける！**

・周りの方に相談しながら、多角的な意見・視点で考える。
・対象者の治療や生活が継続できるよう支援し続ける。

その後・・
**入院勧告解除、退院へ**

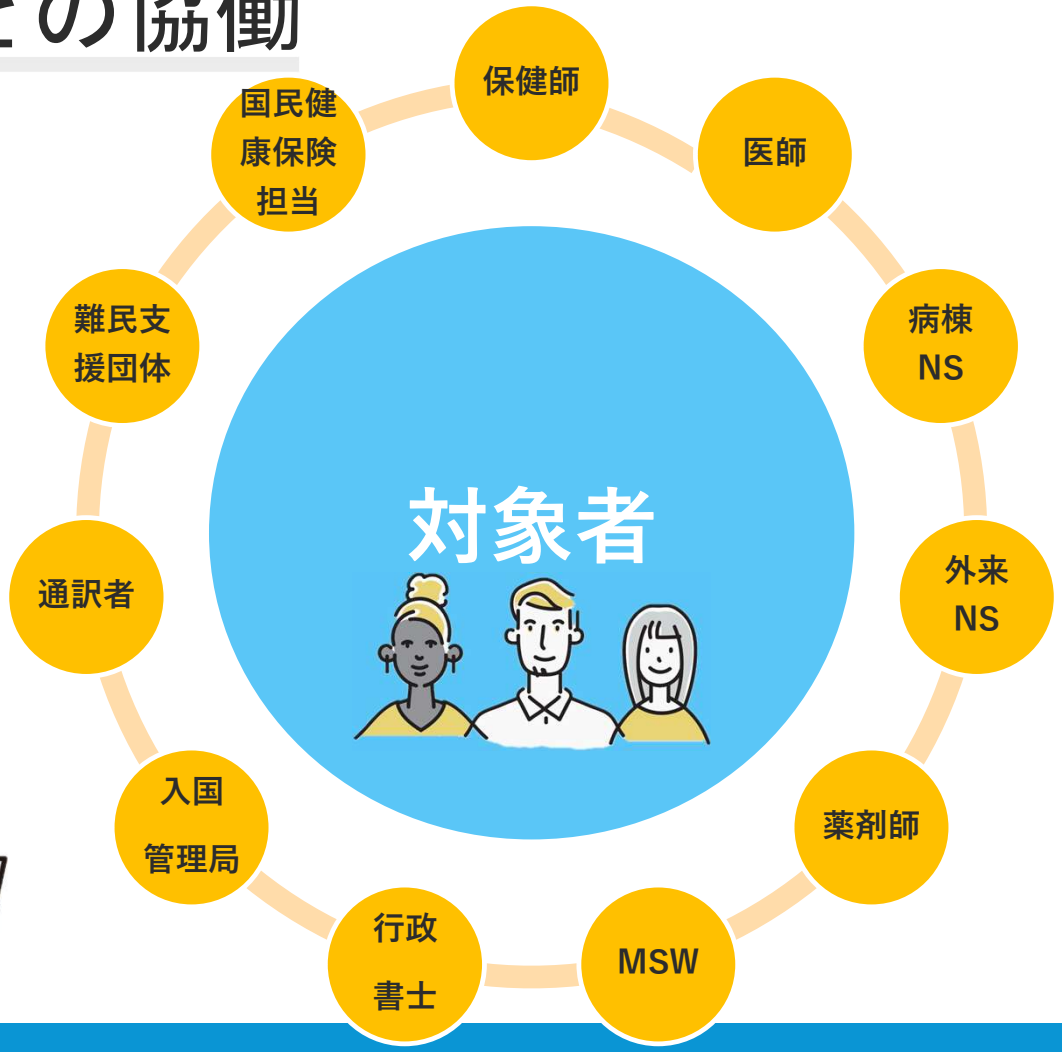
〇コミュニケーション：
信頼関係構築。
退院後の連絡手段の確保（メール）。機械翻訳。

〇DOTS：
病棟・外来NSと内服方法を共有。
結核だけではなく、他疾患の内服状況についても確認。
・自宅訪問。空殻・服薬ノート、副作用確認。
・症状消失後も指示通りの内服期間を完遂する重要性、薬剤耐性を生じないよう毎日の内服の必要性を説明。

〇治療：
受診同行(検査結果・治療方針確認し、病院と共有)

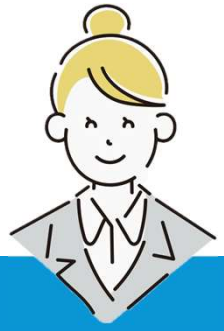
〇経済面：
高額な医療費に対し、国民健康保険加入・限度額適用認定証申請。
→医療費は難民支援団体から返金。

# 関係機関との協働




対象者が主体
対象者の思いを確認

協働する中で、
情報共有・方向性の確認



# 保健活動の楽しさ

○関係機関と協働し、対象者の治療完遂まで援助できる。
　対象者が地域での生活が継続できる。

○感染症の対象者に適切な対応をすることで、新たな感染リスクを予防し
　公衆衛生の一助となる。

○地域の健康課題の把握。予防的視点で介入できる。

自分が担当する個別ケースを丁寧に対応し、
個⇒集団⇒地域　の流れで地域を見る。

# 参考文献


１）厚生労働省：地域における保健師の活動について

平成25年4月19日付健保0419第1号厚生労働省健康局長通知

別紙　保健師の保健活動の基本的な方向性, 平成25年4月19日

２）埼玉県：埼玉県保健所における保健師の活動指針, 令和7年3月改訂

３）埼玉県・さいたま市：保健師人材育成プログラム, 令和4年3月改訂

４）宮崎県：保健師現任教育マニュアル改訂3版, 令和5年3月

# おわりに

〇心身の健康を大切に。
　メリハリをつけ、休日はリフレッシュ。

〇積極的に上司・先輩に、質問・相談。

〇同期や横のつながりを大切に。